

平成28年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 高見 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成28年4月19日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語, 数学)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

(2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 数学A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		数学A		数学B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	24.3	74	5.8	64	21.2	59	6.1	41
全国	25.0	76	6.0	67	22.4	62	6.6	44

(2) 本校の学力調査結果の分析

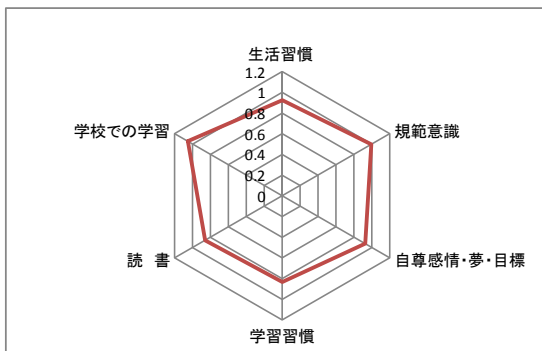
国語A	全体的な傾向や特徴など	全国平均を上回ることができており、「話す・聞く能力」、「書く能力」、「読む能力」、「言語についての知識・理解・技能」ともに基礎的な学力をおおよそ身につけている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	文脈に即して漢字を正しく読む問題に対して正答率が高い。歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む問題に対して正答率がかなり高い。	
	努力が必要な問題	文脈に即して漢字を正しく書く問題で、全国平均を下回るものの誤答率が高い。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	全国平均を上回ることができており、「書く」領域、「読む」領域の内容とも力をつけてきている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考える問題に対して正答率がかなり高い。本や文章などから必要な情報を読み取り、明確にして自分の考えを書く問題に対して正答率が高い。	
	努力が必要な問題	目的に応じて必要な情報を読み取る問題に対して正答率が低い。	

数学A	全体的な傾向や特徴など	全国平均を上回ることができており、「数学的な技能」、「数量や図形などについての知識・理解」など基礎的な学力をおおよそ身につけている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	不等式の意味を読み取る問題やひし形について対角線が垂直に交わることを、記号を用いて表す問題に対して正答率が高い。	
	努力が必要な問題	「同様に確からしい」ことの意味や、近似値の試行が次の試行に影響しないことを理解する問題に課題がある。	

数学B	全体的な傾向や特徴など	全国平均を上回ることができており、「数と式」、「図形」、「関数」、「資料の活用」の4領域ともバランスのとれた学力を身につけている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	適切な事柄を判断し、その事柄が成り立つ理由を数学的な表現を用いて説明する問題の正答率がかなり高い。	
	努力が必要な問題	加えるべき条件を判断し、それが適している理由を説明する問題の無答率が高い。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・自分で計画を立てて勉強をしている生徒、家で学校の授業の予習・復習をしている生徒は全国平均と比べて低く、学習習慣に課題が見られる。 ・将来の夢や希望をもっている生徒は全国平均と比べて低く、それぞれの夢を実現させるために具体的な目標設定を行い、行動に結びつけることができるようなキャリア教育の推進が必要である。 ・本校では、各教科の授業の中で、本時の「めあて」を板書で示す等、「ねらい」を明確にする導入段階づくり、「振り返り」と「まとめ」で生徒にその時間の学習内容を理解させる授業を最終段階でしっかりと取り組んでおり、その成果が調査結果に表れてきている。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

○「基礎的・基本的な学習内容の徹底した定着」

- ・一単位時間ごとの板書計画を作成し、必ず「めあて」「まとめ」を設定した授業を行う。
- ・日々の宿題は、教科担任が提出の有無、内容等を点検した後生徒に返却する。長期休業日中の課題等については係の生徒が回収し、提出の有無を調べた後、担任が確認。その後、教科担任が内容を点検し、生徒に返却する。未提出が続く場合は、教科担任や担任から提出を促すなど、提出物の徹底を図る。
- ・全教科で授業の公開を行い、「授業改善点検評価シート」を活用した職員相互の意見交換を活発に行う。その際、管理職・学力向上推進員による授業参観を毎週行い、具体的な改善点を指導・助言する。

○校内研究の計画的な推進

- ・タブレットPCや電子黒板等のICT機器を活用した授業を実践し、生徒の学力向上のための一助とする。
- ・授業づくりの5つのポイントを全教室に掲示し職員研修等で周知することで、全職員がわかる授業づくりに取り組む体制を整える。

② 家庭生活習慣等に関する取組

○「家庭学習のスタンダード化」

- ・家庭学習の時間を確保するために、課題(宿題)の内容や量について各教科で共通理解を図るとともに、生活ノートを活用した家庭学習の方法について、担任が点検・指導を行う。

○「保護者と読む新聞コラム」

- ・数日分の新聞コラムをまとめて印刷したものを読み、その中から最も気になったものについて、その感想やコラムに対する意見をまとめる課題を通して、「自分の考えを言葉や文章で表現することや、「感想文や説明文を書く」ことに慣れさせ、苦手意識を軽減するとともに、保護者と生徒間の共通話題づくりをし、自己肯定感の醸成を図る。

○「保護者への啓発」

- ・『高見中学校校区で目指す児童・生徒の10のすがたと取組』を各家庭に配布し、生徒・地域・保護者に周知を図り、家庭学習の量・質の充実を図る。
- ・全国学力・学習状況調査の結果、明らかになった課題や取組等を保護者へ周知し、学校と家庭が連携・協力して学力向上と進路の実現に向けて取り組めるようにする。

○「家庭チャレンジハンドブック」等の活用

- ・学活の時間を利用して、担任が家庭学習全般(家庭学習Q&A等)について、また、各教科の家庭学習のポイントについては、各教科担任が授業の時間に指導する。
- ・教科担任が学年別指導内容を熟知した上で教科指導にあたる。

○「小中連携による学力向上の取組」

- ・小中教員による授業研究会を各学期に実施(研究推進学習会・授業作り学習会等)。
- ・小中教員による校内研修会を各学期に実施(対人スキルアップ・自殺予防教育・情報モラル教育等)。
- ・小学校「夏の教室」における中学生のボランティア教師体験。